



道徳科

演題 「道徳科の評価を生かした授業づくり」

講師 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部
教育課程調査官

浅見 哲也 先生



道徳科の授業におけるねらい

同じ教材でも、子供の実態によって授業のねらいは変わります。目の前の子供たちの実態から、どんな道徳の授業がふさわしいかを考えることが大切です。

例「きまりを守る」ことについて

(例)	「規則の尊重」「遵法精神、公德心」	
実態	きまりは生活の自由を制限するものと捉え、肯定的に受け止められていない	周囲に目が向けられず、自己中心的な言動により、きまりが守られていない
ねらい	きまりを守ることで、みんなが気持ちよく生活できるようになることに気付かせ、社会のきまりを守ろうとする心情を育てる 【道徳的心情】	きまりの意義を理解し、みんなのことや周りの状況を考え、きまりを守ろうとする判断力を育てる 【道徳的判断力】

道徳科の評価と授業づくり

● 道徳科のねらいである道徳性が養われたかどうかは、道徳の授業のみでは容易に判断できるものではありませんが、**道徳科の指導では、その学習状況(学んでいる姿)や成長の様子を適切に把握し、評価することが求められています。**

- 授業で子供がどんな学びをしているか見取るために、**子供の学びの姿が現れるような授業づくりが大切です。**どんな学びが必要かを考えた後に教材をみると、教材のどの場面を活用するとよいのか、どの場面で話し合うことが重要なかがみえてきます。

◆ 道徳科の学習状況(学びの姿)の例 ◆

- ・道徳的価値のよさや大切さについて考えようとしている
- ・道徳的価値について、一つの見方ではなく様々な角度から捉えて考えようとしている
- ・道徳的価値について、自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考えようとしている
- ・授業で学んだ道徳的価値のよさを感じ、これからの自分の生き方に生かそうとしている など

- 道徳科の評価は、教師にとっては自らの授業を振り返るための評価、児童生徒にとっては自らの成長を実感し意欲の向上につなげていく評価になります。**指導に生かされ、児童生徒の成長につながる評価でなければなりません。**これが「指導と評価の一体化」です。

コロナ禍における道徳教育

「無言で前だけを向いて給食を食べている」「行うはずだった学校行事ができなくなっている」などの状況で、心のバランスが崩れている児童生徒がいるかもしれません。今の状況からどんな内容項目を重点的に指導するかを考えて、来年度の道徳教育の全体計画を見直しておくことが大切です。

学力向上研修会

1月28日(木)に県総合運動公園陸上競技場で行われた学力向上研修会のポイントになるところをまとめました。

※ 講演会資料等は、学力向上推進チームのHPからダウンロードできます。(令和3年2月末まで)

外国語科

演題 「小・中学校外国語科の指導と評価」

講師 文部科学省 初等中等教育局
教育課程課 情報教育・外国語教育課 教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部
教育課程調査官

山田 誠志 先生



3観点の評価について

一回の言語活動で、**3観点を同時に評価することが出来ます**

【児童のワークシート 評価例】

【小学校第6学年】

(好きなこと、できること、誕生日の言い方を学習した単元)
本時の課題：自分のことを ALT によく分かってもらうために自己紹介を書く
活動内容：前時までに書きためてきたもの等を参考にワークシートに自己紹介文を書く

	聞くこと	読むこと	(やり取り)話すこと	(発表)話すこと	書くこと	観点別評価	評価
知識・技能					英語使用の正確さ		
思考・判断・表現					表現内容の適切さ		
主体的に学習に取り組む態度					言語活動で表出された態度		

児童ワークシート

I'm Takumi.

I like cats.

I like math.

I like baseball.

I like summer.

参考:「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校外国語・外国語活動 P65~76

「知識・技能」は、「英語使用の正確さ」で評価する。
※大文字及び小文字を正しく書き分けたり、語と語の区切りに注意して書き写したりしているかで評価する。

「思考・判断・表現」は「表現内容の適切さ」で評価する。
※目的・場面・状況(今回は、ALTによく分かってもらうために自己紹介を書く)から考えて、適切な内容かで評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」は「言語活動で表出された態度」で評価する。
※真面目に提出物を出すなどの態度ではなく、言語活動の様子を評価する。

自分の好きなものや好きなこと等を表す語句や表現を、文字と文字、語と語の間に適切なスペースをおき、すべて正しく書いているので、「十分満足できる」状況(a)と判断する。

記載した内容に偏りがあり、読み手によりよく自分のこと分かってもらうためにという観点からは、十分ではないので、「おおむね満足できる」状況(b)と判断する。

最初は文字と文字との間隔等、正確に書くことが難しい様子であったが、振り返りカードには「見本のワークシートを四線のそばに置いたら、うまく書けるようになった」との記述等があり、学習に関する自己調整を行っていることから、「おおむね満足できる」状況(b)と判断する。

言語活動について

外国語科の言語活動とは、子供が「**表現する内容**」と「**その内容を伝えるための英語**」の二つを考えて取り組む活動です。言語材料を習得するための練習(単語を入れ替えて行う練習等)は言語活動ではありません。

【1時間の過程(例)】

必然性をもって取り組めるよう工夫を！

(活動に取り組ませる前)

1 言語活動(1回目)

2 指導

3 言語活動(2回目)

①言語活動の目的や場面、状況等を設定し、示す
②使用する言語材料を板書等で先に提示するのではなく、子供と対話しながら、身に付けさせたい言語材料を使って、やり取りのモデルを示す

言語活動を行った後、
③①の設定に照らし、表現内容の適切さを指導する
④英語使用の正確さを指導する

活動で使用する言語材料を、先にどの程度示すのかは実態等による

言語活動を通して、
資質・能力を育成する